

Okonomiya Office



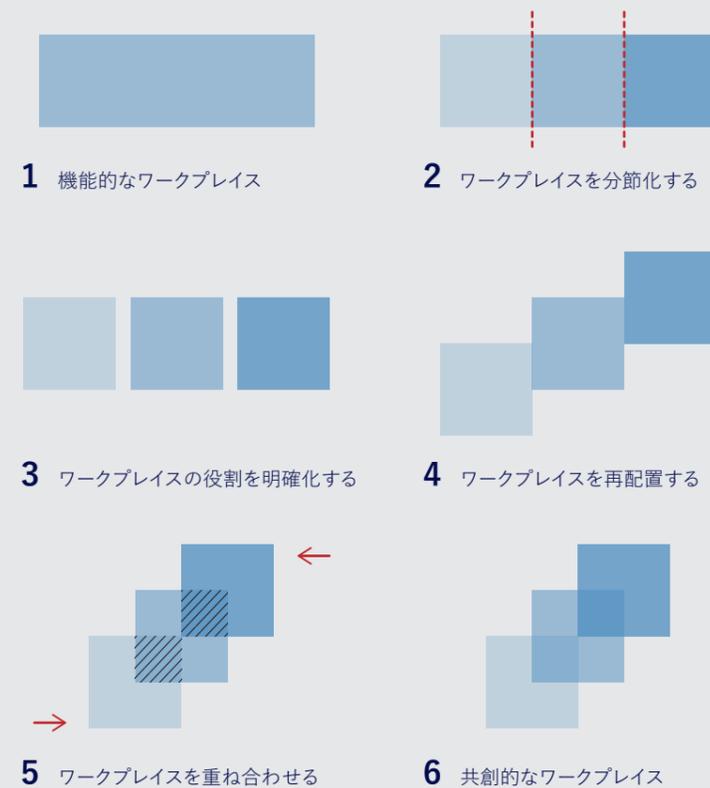
ブリッジからフォーカス、ホームベースを見る。
高さ方向による視線の変化や平面的な位置関係によって、様々なワークプレイスを創出する。

機能性から共創性へ

公認会計士事務所のオフィスを静岡県沼津市に計画した。敷地は駿河湾と富士山との間の高台に位置し、海や山を見渡すことができる眺めの良い環境である。

この建築はワークプレイスを規定する明確な境界を定めず、心理的距離や気配といった目に見えない境界を用いて空間を分けることで、グラデーションに場所や活動に変化を与えていく。

従来の機能性を重視した無機質なオフィス空間から、ワークプレイスを自ら選択する主体性や他者との交流を促す共創性を重視した有機的なオフィス空間を目指した。



建築概要

所在地：静岡県沼津市岡宮 969-1
計画区域：市街化区域
用途地域：第一種住居
第一種中高層専用住居
第一種低層専用住居
防火地域：指定なし
その他：法第22条区域
岡宮北土地区画整理区域
主要用途：事務所
構造：鉄骨造
階数：地上2階建て
工期：2022年4月～2023年3月
最高高さ：8,060mm
敷地面積：2,647.14㎡
建築面積：662.78㎡
床面積：1,159.97㎡
建蔽率：25.04%
容積率：43.82%

主な外部仕上げ

屋根：厚0.4カラーGL鋼板
フラット葺き
外壁：薄塗左官仕上げ

主な内部仕上げ

[ホームベース]
壁：ビニルクロス貼
床：厚8.5タイルカーペット
厚15天然木複合フローリング
[フォーカス]
壁：エキスパンドメタル SOP
床：厚15天然木複合フローリング
[リラックス]
壁：ビニルクロス貼
床：厚15天然木複合フローリング
[ソーシャル]
壁：ビニルクロス貼
床：厚10磁器質タイル貼
厚8.5タイルカーペット



ソーシャルからフォーカス、リラックスを見る。様々な活動を見渡すことができる。



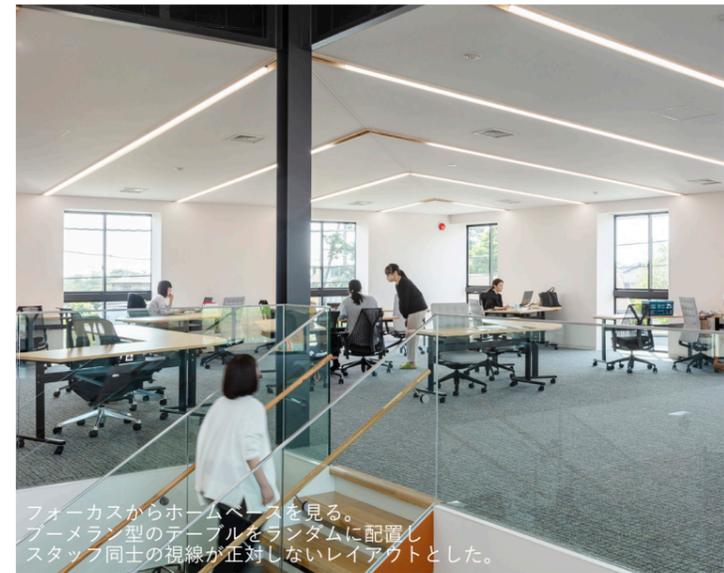
エントランスホールからフォーカスを見る。土間とフローリングの境に65mmの段差を付けることで緩やかに領域を切り替える。



ブリッジからリラックスを見る。個別ブースやダイニングテーブルを設けることで少人数での気軽なミーティングや気持ちを切り替えたい場面で活用する。



フォーカスからリラックスを見る。オープンキッチンやインフォメーションを設けスタッフ間のコミュニケーションを促す。



フォーカスからホームベースを見る。ブーメラン型のテーブルをランダムに配置しスタッフ同士の視線が正対しないレイアウトとした。

平面計画

① 3つのボリュームと2つの吹抜

「来客」「共創」「執務」といった異なる3つのボリュームを雁行配置させ、双方の関係性やセキュリティの強度を緩やかに変化させていく。オフィス内の活動や雰囲気を感じ取れる立体的なワンルーム空間とするため、ボリューム同士が重なる2つの交差部には吹抜と中間階を設けることで、空間をシームレスにつなぎ合わせる。



② 4つのワークプレイス

オープンなオフィス空間の中でスタッフが主体的な活動を選択できるよう「グループ⇄パーソナル」「フォーマル⇄カジュアル」の要素を掛け合わせた4つのワークプレイスを計画した。



Home Base

スタッフ間の集団コミュニケーションを円滑に図るワークプレイス。テーブルの形状やレイアウトに変化を与えることで、業務や目的に応じて働く場所を自由に選択することができる。

Relax

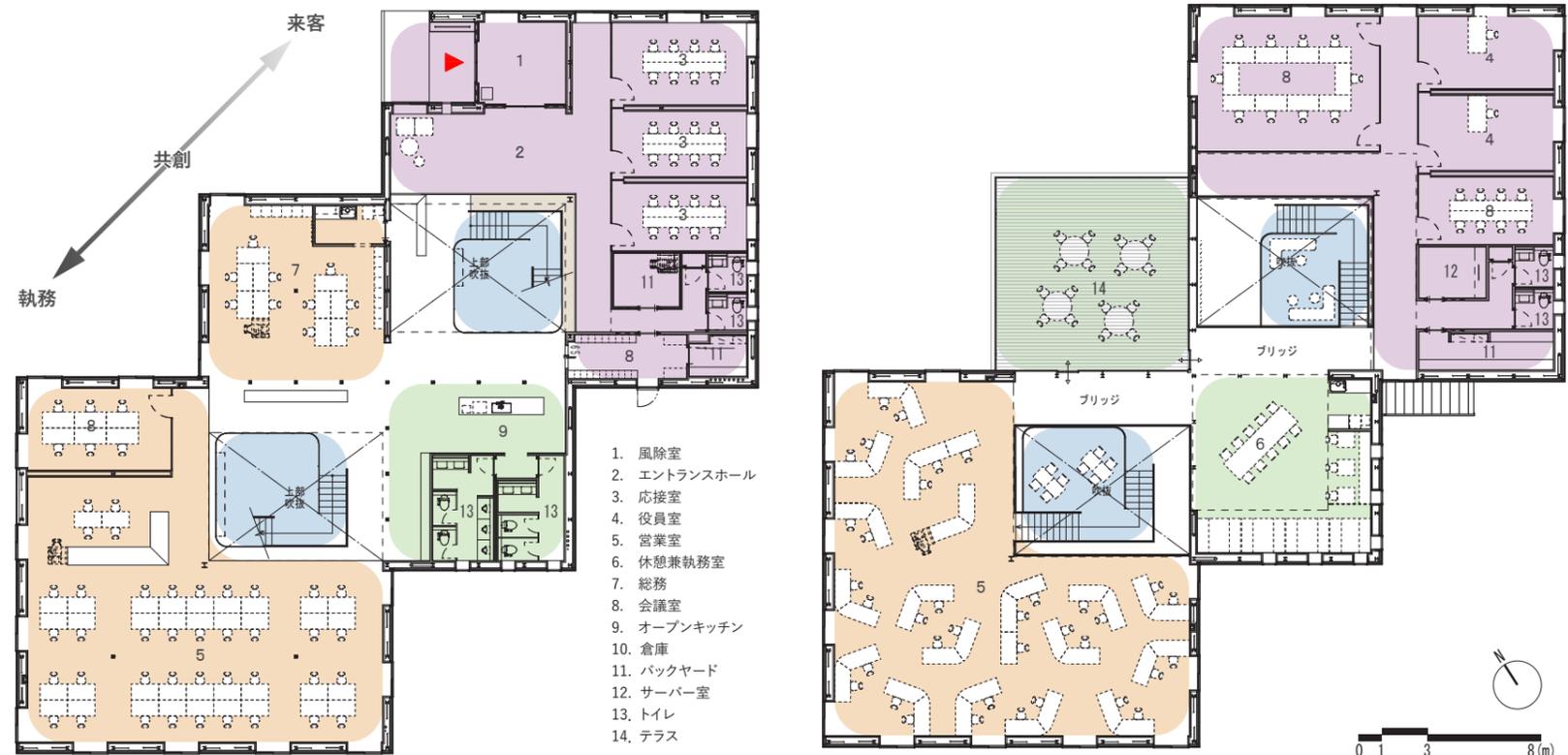
個別ブースやダイニングテーブル、キッチンを設けたワークプレイス。気持ちを切り替えることで、業務にメリハリが付き、生産性の向上が期待できる。

Focus

業務に集中したい時や短時間の打合せに利用するワークプレイス。中間階に計画することで、他者からの視線を気にせず業務に集中できる。

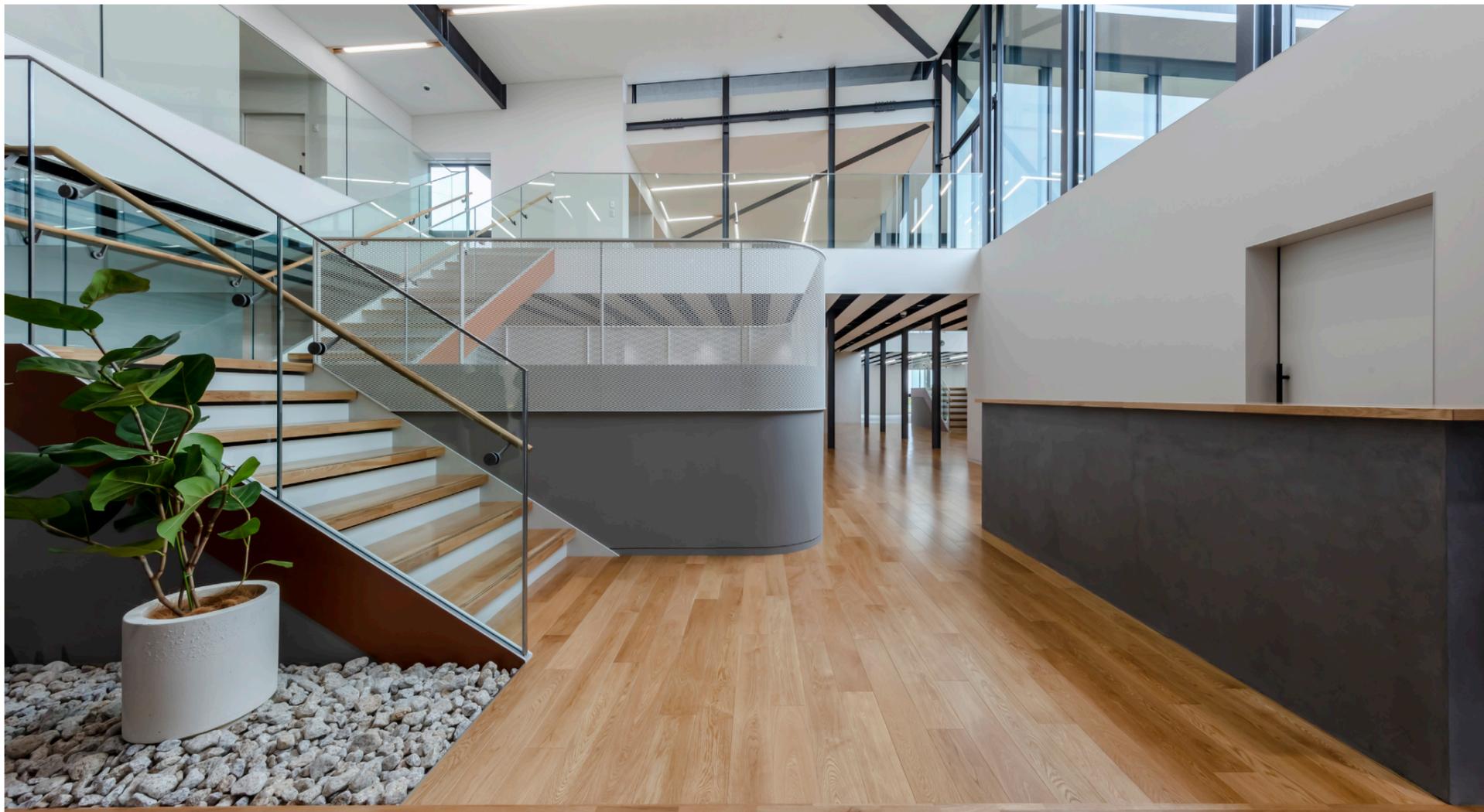
Social

エントランスホールに面した来客用のワークプレイス。土足空間とすることで、クライアントとの打合せがスムーズに行うことができる。



1階平面図

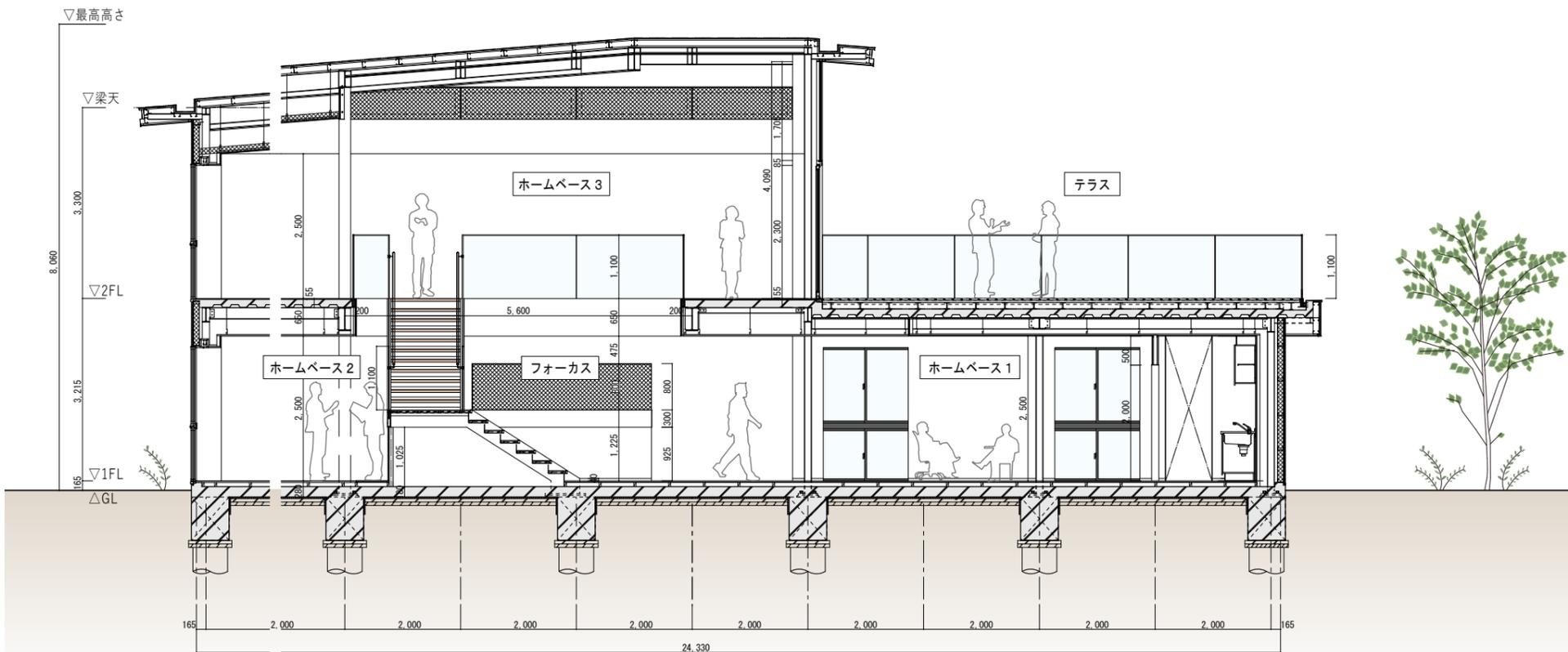
2階平面図 SCALE=1:300



エントランスホールからフォーカスを見る。
1階から中間階、2階、双方の活動が感じられるよう、中間階をFL+1100mm、2階の階高をFL+3215mmと抑えることで、上下階の関係性を高めた断面計画とした。



2階から吹抜けを見る。
中央に配置した細い鉄骨柱によって、フォーカスとリラクスの領域を緩やかに分ける。



断面図 SCALE=1:100



1階ホームベースから吹抜けを見る。
折れ曲がりの階段や中間階のボリュームを設けることで、複層的な活動空間を作る。



上空からフォーカス、リラックスを見る。
3つのボリュームが重なり合うことで生まれた4つのワークスペースによって主体的な共創空間を実現した。